

2006 年度 MR ワクチン健康状況調査（速報）について
 （予防接種後副反応・健康状況調査検討会委員 堺 春美）

1 MR ワクチン予防接種後健康状況調査について

MR が市販された最初の年度である 2006 年度の MR ワクチン I 期接種と II 期接種のまとめを示す。

表 1 に 2005 年度の麻しん単抗原ワクチンと風しん単抗原ワクチンの予防接種後健康状況調査と 2006 年度 MR ワクチン予防接種後健康状況調査の結果を示す。麻しんワクチンは 3 製造所で製造され、風しんワクチンは 4 製造所で製造されている。表 1 は全製造所の総数の結果である。I 期 MR ワクチンの発熱、発疹、局所反応、けいれん、蕁麻疹の発生頻度は麻しん単抗原ワクチンと同等であった。

表 2 に 2005 年度の麻しん単抗原ワクチンと風しん単抗原ワクチンの予防接種後健康状況調査と 2006 年度 MR ワクチン予防接種後健康状況調査の結果を製造所別に示す。MR ワクチンは武田薬品工業と阪大微研の 2 製造所が製造しているので、まとめはこの 2 製造所についてのみである。各製造所別に比較しても I 期 MR ワクチンの発熱、発疹、局所反応、けいれん、蕁麻疹の発生頻度は麻しん単抗原ワクチンと同等であった。

風しんワクチンの副反応であるリンパ節腫脹、関節痛については、微研の I 期 MR ワクチンのリンパ節腫脹が風しん単抗原ワクチンに比較して高頻度であった以外は、I 期 MR ワクチンの副反応と風しん単抗原ワクチンの副反応は同等であった。

発熱・発疹は麻しんワクチンの主要な副反応であるが、II 期 MR ワクチンの発熱は I 期 MR ワクチンの発熱率の 1/2.5（武田）、1/3（微研）であり、発疹は 1/3（武田）、1/5（微研）であった。II 期 MR ワクチンを受けた児のうちの大半は麻しん単抗原ワクチン接種を受けているために免疫があり、MR ワクチンを接種しても発熱もせず、発疹も出ない。II 期 MR ワクチンによって免疫が作られるのは、麻しん単抗原ワクチンまたは風しん単抗原ワクチン歴がないか、あるいは、免疫が減衰した児のみである。そのため、全体でみると、II 期の発熱率が低いという結果になったと思われる。

麻しん単抗原ワクチンと風しん単抗原ワクチンを混合して MR ワクチンとしても副反応の増強は認められなかった。MR ワクチンは我が国における麻疹対策ならびに風疹対策にきわめて有用であると考えられた。